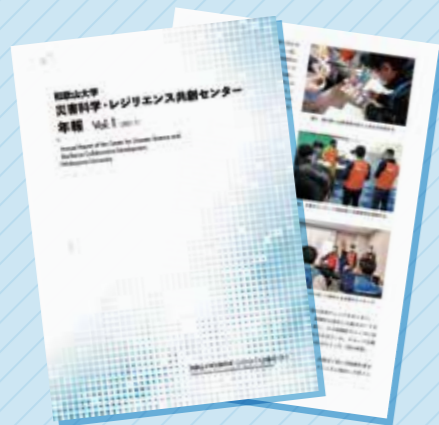


詳細な活動報告は
WEBで公開しています。



センターの研究成果を、年報に
まとめて、年1回発行しています！

年報やイベント等の情報は、センターの
ホームページでもお知らせしています。
是非ご覧ください。

[https://www.wakayama-u.ac.jp/
disaster/achievement/bousai/](https://www.wakayama-u.ac.jp/disaster/achievement/bousai/)



和歌山大学
紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus

災害科学・レジリエンス共創センター



鉄道防災教育・地域学習列車「鉄学」
王子ヶ浜付近での鉄道利用者の津波避難訓練

和歌山大学 災害科学・レジリエンス共創センター

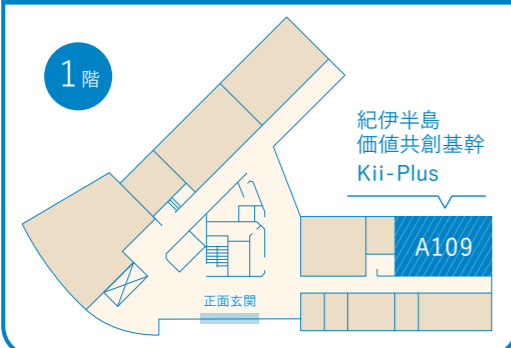
〒640-8510 和歌山市栄谷930
北1号館(システム工学部)1階 A109 室 紀伊半島価値共創基幹(Kii-Plus)内

TEL 073-457-7558 E-mail bousai@ml.wakayama-u.ac.jp

URL <https://www.wakayama-u.ac.jp/disaster/>



災害科学・レジリエンス共創センター
＜ Kii-Plus事務室 / 北1号館1階 A109 ＞



防災に関するご相談や講師依頼はコチラへ

地域の防災に関する活動への協力、講師派遣などのご要望、共同研究の
ご相談などございましたら、お気軽にご相談ください。

<https://www.wakayama-u.ac.jp/disaster/request/>



自然災害に対して

“しなやかに対処する力 = レジリエンス(resilience) ” を
地域の皆様と共に創り上げていきます。

災害科学・レジリエンス共創センターは、自然災害とその被害軽減に関する研究に取り組んでいます。そして、その研究成果を地域社会に還元・実装し、減災活動にかかわる人材の養成および地域連携を通じた地域防災力の向上に貢献することを目的としています。

2004 防災研究教育プロジェクト
2010 防災研究教育センター
2016 災害科学教育研究センター
2020 災害科学・レジリエンス共創センター

2011年3月 東日本大震災
2011年9月 紀伊半島豪雨

2019年10月 台風19号水害

2021年10月 六十谷水管橋破損

ボランティアバス(岩手、和歌山)

防災士養成プログラム開始

ボランティアバス(長野)

和歌山市社会福祉協議会との訓練

和歌山県社会福祉協議会との協定

ボランティアステーション「むすぼら」発足

給水ボランティア

沿革

センターの活動内容

災害科学・レジリエンス共創センターでは、大きく4つのテーマで活動しています。

観光地防災の社会実装研究

観光立県をめざす和歌山県においては、観光地や観光客を対象とした防災・減災への取り組みも重要な課題となっています。鉄道などの公共交通機関利用客の避難訓練や、地域の大地の成り立ちと防災を学ぶ防災ジオツアーなどの社会実装に取り組んでいます。



鉄道乗客の避難訓練



防災ジオツアー

防災・減災・復興の担い手づくり

地域防災を支える人材の育成は不可欠です。本センターでは、授業やシンポジウム、公開講座等を通じて、防災・減災・復興を担う人材の育成に取り組んでいます。さらに、学生や教職員の地域での実践活動を通じて、実践力を備えた人材の育成を推進しています。



災害図上訓練



公開講座

防災を通じた産業イノベーション

防災・減災の取り組みを具体的に社会実装するためには、新たな技術開発やサービス創出も必要となります。災害時に役立つ情報や避難経路を載せた防災マップを地域で協力しながらWeb上で作成するアプリケーションや、低消費電力で長距離通信可能な無線通信技術を利用した河川水位観測システムなどの開発に取り組んでいます。



防災マップ作製支援サービス



無線通信技術を活用した河川水位計

和歌山大学の更なる防災力強化

和歌山県で大規模災害が発生した場合には和歌山大学も被災します。大学も被災することを前提に、地域とともに災害にどのように対応していくべきか、大学の防災力強化のために、地域の社会福祉協議会との連携や、学内に災害ボランティアステーションの設置などに取り組んでいます。



社会福祉協議会と共同での訓練



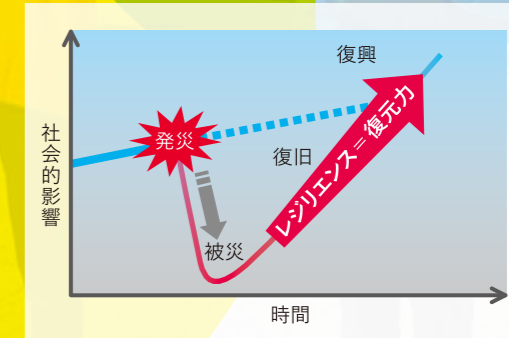
大規模断水時の給水ボランティア

「レジリエンス」と「共創」

レジリエンス(resilience)には、復元力、回復力、弾力性という意味があります。弾力性があるゴムが、力をかけると変形しますが、力をぬくと元の形に戻ろうとします。このような性質を被災地の被害の度合いと重ね合わせ、災害を受け止めつつ、災害後に速やかに復旧・復興していく力、それをレジリエンスと呼んでいます。

自然災害やその被害軽減、そしてレジリエンスに関する研究成果や知見は、地域に還元してこそ役立ちます。地域社会と大学とで連携をはかりながら、みなで共に創りあげていく「共創」が非常に重要です。

この二つのキーワードを名前に冠する災害科学・レジリエンス共創センターでは、地域に貢献する防災・減災に関わる教育・研究活動に取り組んでまいります。



(結ぶ+ボランティア)
×
和歌山弁

和歌山大学

災害ボランティアステーション

和歌山大学は研究・教育の知見を活かして、教育機関として「防災・減災・復興の担い手づくり」に取り組み、地域に貢献することを目指しています。その活動のひとつとして、学生、教職員が参加する災害ボランティアステーション(愛称:むすぼら)を開設しました。



むすぼらの開設式(2021年3月11日)